















「大いので野蛮なアイノックスは、少数の部族単位で荒野に散らばっている。 狩猟採取を旨とする騎乗民族で、乏しい資源をかき集めながら危険な野生動物と対峙している。 その知性と教養のなさは、優れた身体能力と体格によって埋め合わせられ、対決のなかで自身を証明しようとする。したがってアイノックスとの遭遇では、常に挑まれる覚悟が必要である。社会通念として、彼らは道徳や倫理といったものにあまり関心を抱いていない。アイノックスにとっては生存競争が全てだ……すなわち殺すか殺されるか。

ふつうグルームヘイヴンに住むアイノックスは、その野獣のごとき腕力や、肉体労働者としての頑健さによって評価される。しかし傭兵として成功したいなら、ときに手際のよさも求められるのだ。ハチェットすなわち投げ斧使いは、最新流行の衣服で着飾り、街での暮らしを謳歌している。とはいえそれは正しくファッションにすざない。ハチェットの真の情熱は、あつかう多量の武器にある。これほど正確に投げ斧を使う輩はいない。嘘だと思うなら、死を賭した決闘に備えるべきであろう。





















































































